

「親と子のよい歯のコンクール」優秀賞受賞

愛媛県と県歯科医師会が主催の「親と子のよい歯のコンクール」において、奥野里映さん・日那史ちゃん（長浜）が優秀賞を受賞しました。このコンクールは、平成30年度に3歳児歯科健康診査を受診した子とその親が対象です。

むし歯の予防、歯みがきの動機付け、正しい食習慣の定着などが、歯とお口の健全な成長発育に大切といわれています。より多くの人々が歯とお口の健康を保つことができるように、大洲市でも親子の歯の健康について取り組みを続けていきます。



豪雨被災のライスセンターが移転・完成

西大洲に移転したJA愛媛たいきライスセンターの竣工式が、9月19日(木)に開かれました。式には関係者ら約30人が出席し、機械の起動スイッチを押して完成を祝いました。ライスセンターでは、農家によって持ち込まれた米や麦が、乾燥、もみすり、色彩選別などにより調製されます。

愛媛たいき農業協同組合代表理事組合長の菊地秀明さんは「多くの協力があつて無事に完成した。ライスセンターを拠点に、さらなる大洲の農業振興に取り組みたい」とあいさつしました。



ご長寿おめでとうございます ～令和元年度100歳訪問～

今年度、満100歳を迎える市内の長寿者23人を祝い、より一層の健康増進を祈念しようと、9月26日(木)、二宮市長が対象者を訪問しました。この訪問は毎年実施しているもので、今年は大正8年度生まれの人を対象としています。

市長は、市内対象者の家庭や施設を訪れ、一人ひとりと懇談し記念品の贈呈などを行いました。対象者の1人である穂積マツミさんを訪問した二宮市長は、「おいしく食事を食べ、ずっと笑いながら過ごしてほしい。元気で長生きのためにも、自分ができる運動を毎日コツコツと続けてください」と話しました。

二宮市長の言葉に穂積さんは、「100歳を迎え、自分でも驚いています。若いころから、農家として力仕事をしてきたからかもしれません。今日はこのようにお祝いしていただき、ありがとうございました」と述べました。

敬老の日（9月16日）現在、市内の100歳以上の高齢者は43人で、最高齢者は、女性が109歳、男性が105歳となっています。



脱藩の道を歩み、龍馬の偉業をしのぶ
 ～第31回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道～

河辺地域で恒例の龍馬脱藩のイベントが9月21日(土)、22日(日)に開催されました。

前夜祭として「龍馬を語る夕べ」が、21日(土)に河辺ふるさとの宿で開催されました。

第1幕では、演歌歌手の大林幸二さんをゲストに迎え、歌謡ショーが行われました。前夜祭の恒例の曲となっている、龍馬脱藩ルートを歌った「奔れ！龍馬」を始め、歴史を題材にした歌や軽快なトークで会場は大いに盛り上がりしました。第2幕では、女優の宮本真希さんのトークや、龍馬ファンによる龍馬談義が行われました。最後は「奔れ！龍馬」を参加者全員で歌い、翌日の完全踏破に向け気持ちを一つにすることができました。



大林幸二歌謡ショー

22日(日)には、「第31回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が行われました。

出立式には、スペシャルサポーターの宮本真希さんや、東北や関東などから集まった県外者37人も参加しました。参加者代表が力強い完全踏破宣言を行い、龍馬役を先頭にスタートしました。

約230人の参加者は、Aコース(榎ヶ峠・泉ヶ峠)とBコース(河辺ふるさと公園・泉ヶ峠)の2コースに別れて歩きました。雨が降る中、宮本さんや地元の人のご接待を受け、約150年前に坂本龍馬が脱藩した河辺の道を、龍馬に思いを馳せながら、それぞれの思いを込めて踏破しました。



宮本真希さん(写真右)によるおもてなし

一息ついて、落ち着いて

秋の全国交通安全運動に合わせ、社会福祉法人大洲幸楽園による交通茶屋が、9月25日(水)、平野地区の県道沿いで行われました。活動の前に、大洲警察署の山崎淳二署長が「小さな運動ですが、交通事故が1件でも減るように、ドライバーに安全運転を訴えてください」とあいさつしました。

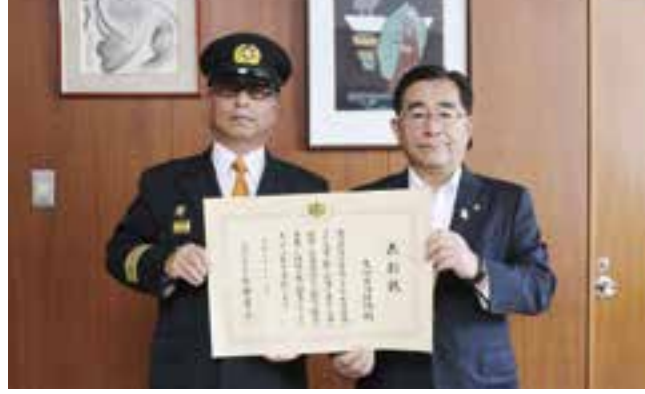
交通茶屋には、大洲幸楽園の利用者や大洲交通安全協会の会員など約50人が参加し、チラシや地元産の梨などをドライバーに渡して交通安全を呼びかけてました。



災害時の防災活動を称えて

大洲市消防団が、令和元年度防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。大洲市消防団は、平成30年7月豪雨災害時に、降り続く雨の中、水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、孤立住民の救助活動などを行い、11日間延べ3,335人が出動しました。こうした地域の安全を守る消防団の功績が認められ、受賞が決定しました。

表彰を受け、大洲市消防団長の矢野正祥^{まさかず}さんは「この受賞に恥じないように、市民の安全・安心を守るべく、より一層精進したい」と話しました。



地域医療の未来を考える

～医療の現場から～ No.5

(一社)喜多医師会
喜多医師会病院

喜多医師会病院は、昭和58(1983)年に、大洲喜多地区の高度先進医療を目指して、大洲市内子町のほぼ中心部の徳森小鳥越に設立されました。平成11(1999)年には、四国初の地域医療支援病院に認可され、以来、地域の病院からの紹介患者に対する高度な医療の提供や、最新の医療機器などの共同利用の実施など、地域における医療の確保に向けた支援を行ってきました。

病院建物の老朽化に伴う移転新築では、移転先を東大洲とし、平成30年6月に完成しました。その落成式を翌日に控えた同年7月7日(土)に、平成30年7月豪雨によって浸水被害に遭いましたが、全職員その他各方面の協力を得て、当初の予定通り同年7月18日(火)に外来診療を開始しました。

病床数は、一般病床158床、療養病床41床の合計199床(4病棟)体制で現在に至っています。



診療科目	内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・血液内科・感染症内科・外科・放射線科・リハビリテーション科・脳神経外科・心臓血管外科・小児外科
受付時間	午前8時～11時30分
休診日	土日、祝日、年末年始
所在地	〒795-8505 東大洲1563番地1
電話番号	0893-25-0535
公式HP	https://kitaishikai.jp/hp/

救急患者受け入れ体制・概要・現状

喜多医師会病院には、大洲・喜多地区で唯一、心臓のプロフェッショナル(循環器専門医)が常駐しています。そのため、緊急治療(経皮的冠動脈形成術)を要する急性心筋梗塞などの循環器救急患者を受け入れられる体制が整えられています。また、高齢化社会で急激に増加している心不全患者の診療には、多職種によるチーム体制で重点的に取り組んでいます。

心筋梗塞や狭心症などの循環器の治療には、血管の状態や血液の流れを調べる血管造影検査が必要とされています。喜多医師会病院には、それらの検査を行うための設備が整えられていて、血管造影室で検査や治療が行われています。また、この血管造影室は、救

急車で患者が搬送される「救急処置室」と隣接しているため、より迅速な循環器の救急治療を行うことができます。

救急患者受け入れ概要

(平成30年9月～令和元年8月)
※移転後から1年間

▽受け入れ患者数 1,086件
うち救急車搬送 361件

▽内訳
入院920件、外来166件



血管造影室



救急処置室

安心できる医療の 体制構築を

大洲喜多地区の二次救急輸送体制は、市立大洲病院、大洲中央病院、大洲記念病院と加戸病院の4病院で構成されています。しかし、医師不足の影響で週3日は八幡浜地区の救急病院が加わり、広域で救急輸送を行っているため、地域住民のみならずには多大なご迷惑をかけていると思います。

喜多医師会病院は、地域医療を担う「かかりつけ医」を支援し、かつ地域の救急を担う病院として平成11年に地域医療支援病院として認可され、年間900件以上の救急患者を受け入れています。さらに、循環器救急患者については、24時間365



喜多医師会病院 院長

住元 ^{たくみ}巧さん

日体制で八幡浜市や西予市を含めた広域からの患者を受け入れていて（現在は一部の曜日で受け入れが困難）、二次救急輸送病院の補完的な役割を果たしています。また、「大洲喜多在宅医療・介護連携事業」における在宅患者や、一次救急を担う「大洲喜多休日夜間急患センター」の受診患者のバックアップ病床としての機能もしています。

この地区の高齢化率は38パーセントとすでに超高齢化を迎えていて、人口は今後30年間で4割以上の減少が見込まれています。高齢者については、医療と介護のニーズを併せ持つケースが多いため在宅医療の役割は不可欠です。しかし、この地域の開業医の高齢化と今後の開業医数も大幅に減少する中で、在宅医療・介護の分野にも、近い将来、限界を迎えることは間違いありません。

今後、急速に高齢化と人口減少が進む中で、この地域の医療をどう成り立たせるかが喫緊の課題です。住民が安心できる医療提供の体制構築に向け、行政、医師会、病院や住民が本気で取り組む時期が来ているのではないかと思います。



外来/放射線科 看護主任
救急看護認定看護師

尾上 ^{ゆうすけ}祐介さん

ひとりでも多くの 命を救えるように

喜多医師会病院は、救急当番病院に含まれていませんが、心筋梗塞などの心疾患に関しては、当病院でしか処置できない場合が多いため、大洲市・喜多郡以外からも救急患者の受け入れを行っています。また、救急車で患者が搬送される際、病状によっては、救急隊員の判断で、その日の救急当番病院ではなく、当院に直接搬送される場合もあります。他の病院とは違い、担当する曜日がないため、いつ救急要請が来ても対応できるように体制を整えています。

私は2年前に「救急看護認定看護師」の資格を取得しました。認定看護師として救急看護の実践はもちろんのこと、他の看護

師の救命技術のさらなるスキルアップを目指して院内研修なども行っています。また、新病院に救急処置室が新設されることになったため、スタッフや物品などゼロの状態から立ち上げに関わりました。救急対応は、準備やチームワークが大切です。そのため、迅速に他部門と連携できるように情報伝達のネットワークも院内に整え、現在に至っています。

心臓の疾患は、発症すると治療には一刻を争います。一人でも多くの患者を救うためには、病院従事者や救急隊員だけでなく、みなさん一人ひとりの協力が必要になります。駅や道路で人が倒れたといったニュースがよく流れていますが、その原因のほとんどが心臓の疾患によるものです。その際に、心臓マッサージやAEDを用いた処置ができること、生存率が大きく上がります。

大洲市は過疎化が進み、人口も減少しています。だからこそ、一人ひとりが意識を持って、救急活動の講習などに参加していただき、救命のリレーに力を借してほしいと思います。

青年海外協力隊 梶谷 沙紀 さん

Hola. (スペイン語でのあいさつ) JICA海外協力隊としてエクアドルで環境教育を行っている梶谷沙紀です。

先日、首都キトで小学校の先生約280人に対し、環境保護や3R(リデュース、リユース、リサイクル)の手法についてのワークショップを行いました。任地での学校教育や生ごみ堆肥化のコンポスト普及活動も本格化し、慌ただしい日々を過ごしています。大洲は夏が終わったところでしようか。今回はエクアドルの食事について紹介します。



首都キトでのワークショップで紙の再利用方法(紙箱作り)を教えています。

【食事って何を食べるの】

主食は日本と同じお米です。しかし、ここでは、お米を炊く際に



エンセボジャード(料理名) 魚のスープにバナナチップスを入れて食べます。

塩と油を大量に使います。スープとお米、焼いた、または揚げた肉料理が定番です。野菜は、ほぼ食べません。エクアドルの食事は、食べる量(提供される量)がとにかく多いのが特徴です。

また、果物も比較的良好よく食べます。バナナは特に安く、1本約5円で購入できます。スープと一緒に食べるバナナチップスが個人的にお気に入りです。ちなみに、チヨコレートですが、日本の市販品よりも高値で販売されています。なかなか食べることができていませんが、カカオの味が濃厚で風味も強く、とてもおいしいです。今回は、クジラやイグアナなどの動物や自然についてお届けします。それではまた次回。

Hasta luego. (スペイン語で「さようなら」の意味)

野鳥



タシギ(田鷓)
チドリ目 シギ科
全長 27cm

秋に入ると水田脇や水路、流れの緩やかな小川で出会うことができるジシギの仲間です。ちょうど秋頃は移動の季節で、オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギなど、タシギのそっくりさんが同時に現われるので識別は難しくなります。その中でも、一番水際で生息している浅瀬で餌を捕り、冬に見かけたら本種です。

人が近づくとぎりぎりまで身を伏せ、急に飛び出し高速で飛んで逃げます。近代農法は水路をコンクリート化し、乾田化したため、在来から暮らしている生物たちには住みにくくなっています。それでもたくましく次の時代に命をつないでいます。農村を取り巻く状況も著しく変化していますが、将来において私たちもさることながら、生き物達にも明るい未来であるように願っています。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

文化財



沼田のイロハカエデ
市指定天然記念物
個人所有

この木は、平野町の中でも八幡浜市日土町との境に近く、高山から出石寺へ延びる尾根の中腹に位置する、沼田集落にあります。

この木の樹高は約16m、枝張りも約19mになり、推定樹齢は400~500年と考えられています。イロハカエデは、イロハモミジや高雄カエデなどとも呼ばれ、市内各地で自生しているほか、紅葉が美しいことから、庭木や街路樹としてしばしば植栽されています。また、木材としても利用されます。

普段目にする機会の多いカエデですが、樹齢が高くこれほどまで高木に生長したカエデは、全国的にも数少なく、県下では最大級とされています。

(昭和59年4月25日指定)